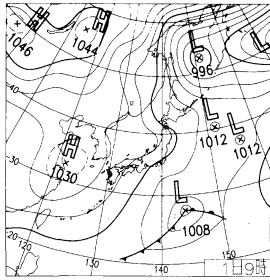


# 日々の天気図

— No. 38

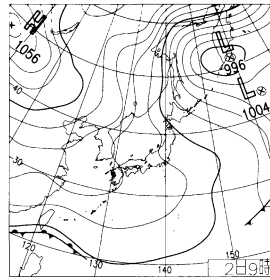
2005年3月

- 4日、発達中の低気圧の影響により、東日本の太平洋側で大雪。日降雪量は福島32 cm、宇都宮12 cm、東京2 cm。
- 13日、強い寒気の影響で山陰や近畿の日本海側で大雪。24時間の降雪量は鳥取で56 cm、米子36 cm、豊後32 cm。
- 20日、福岡県西方沖でM7.0の地震。福岡、佐賀で震度6弱。
- 29日、スマトラ島付近でM8.5の地震。(気象庁予報部予報課)



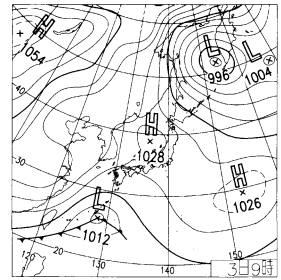
## 1日(火)関東以西概ね晴れ

北日本の冬型気圧配置やや強まる。日本海には新たに寒気入り、山陰から北の日本海側は所々雨や雪。東シナ海の高気圧西日本から覆い、関東から西は概ね晴れる。



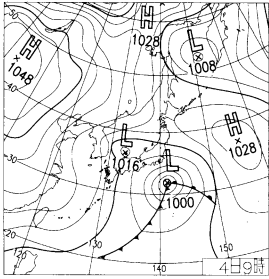
## 2日(水)北日本日本海側降雪

北日本では冬型の気圧配置が続く。雪。東日本から西は高気圧に覆われ概ね晴れ。南西諸島では曇りや雨。九州～関東までのソメイヨシノの開花予想(第1回目)を発表。



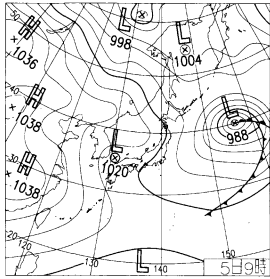
## 3日(木)青森市今冬最深積雪

北日本は冬型の気圧配置で日本海側を中心に雪。沖繩付近からは低気圧が発達しながら北東進。雨が南西諸島・九州から降り出し、夜は東日本に移る。青森市では最深積雪178 cm。



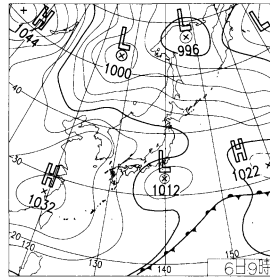
## 4日(金)東京都心も積雪

発達中の低気圧が関東の南海上を通過。東日本及び東北の太平洋側で雪。関東の平野部でも積雪。都心は2 cm。3月としては1998年以来7年振りに1 cm以上の積雪。



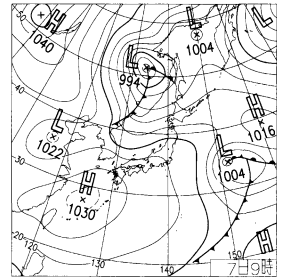
## 5日(土)真冬並の寒さ

寒気を伴った気圧の谷が日本列島に接近。北海道と東海地方を除いて全国的に雪や雨。最高気温は全国的に低く、鹿児島市と那覇市は平年より7℃以上低い真冬の寒さ。



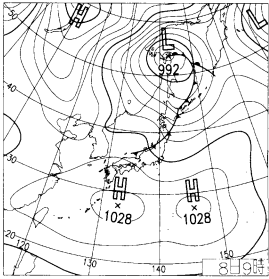
## 6日(日)屋久島で積雪

西日本の上空5000 m付近に-36℃以下の寒気が入り、大気の状態が不安定。九州北部を中心に積雪。長崎県対馬市5 cm、福岡市4 cm、屋久島でも1986年の0 cm以来の積雪1 cm。



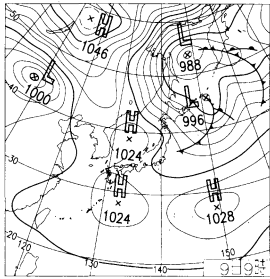
## 7日(月)北海道4月並の気温

高気圧に覆われ、北日本の日本海側で曇りや雪の他は概ね晴れ。朝の気温は平年に比べ、北日本で5℃前後高く、その他は5℃前後低い。函館市の最高気温は4月上旬並の8.8℃。



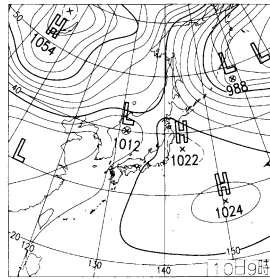
## 8日(火)近畿～関東気温上昇

北日本は寒冷前線の影響で雪や雨となったが、東・西日本は高気圧に覆われ晴れ。全国的に日中の気温も上がり、3月下旬～4月上旬並。静岡の最高気温は4月下旬並の20.7℃。



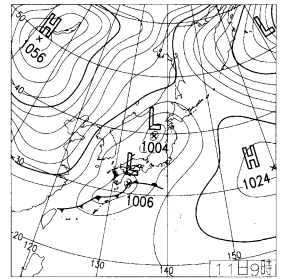
## 9日(水)北海道真冬日

北海道は東海上の低気圧の影響で風が強く雪。札幌市では最高気温が平年より4.7℃低い、-2.4℃の真冬日。その他は高気圧に覆われて概ね晴れ。



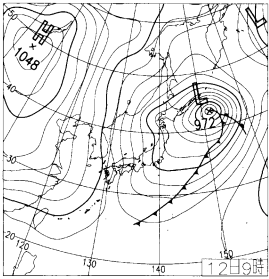
## 10日(木)山陰・北陸でフェーン

日本海を低気圧東進、太平洋の高気圧が東・西日本を覆う。西日本で雨の所がある他は晴れ又は曇り。山陰・北陸はフェーンで気温は平年より高く、北陸は5月中旬並の暖かさ。



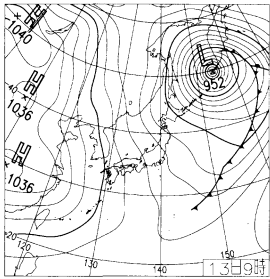
## 11日(金)日本海と南岸に低気圧

日本海を低気圧が東進。本州南岸に停滞する前線上にも低気圧が発生し発達しながら北東進。全国的に曇りや雨。北海道は雪、東北と関東～西日本は雨。



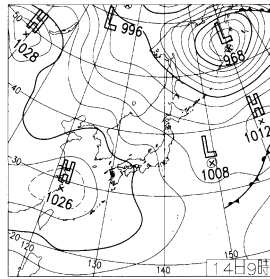
## 12日(土)冬型の気圧配置

冬型の気圧配置となり、北海道で雪や雨。中国～東北地方の日本海側では雪や雨。南西諸島は雨、その他は概ね曇り。神戸市でスイセンが開花。



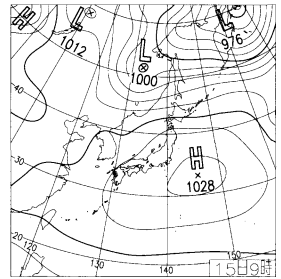
## 13日(日)真冬の寒気

日本の上空5000 m付近には-36℃以下の真冬の寒気が入り、日本海側や山沿いで降雪が強まる。21時までの24時間に鳥取市で56 cmの降雪。



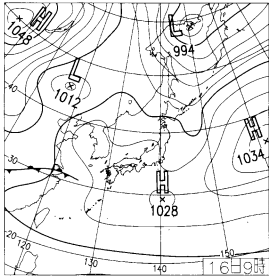
## 14日(月)新潟大雪続く

冬型の気圧配置は西日本からが緩むが、北陸では降雪が続く。新潟県魚沼市では16時までの24時間に52 cmの降雪。気温は全国的に低く、九州・南西諸島で真冬並。

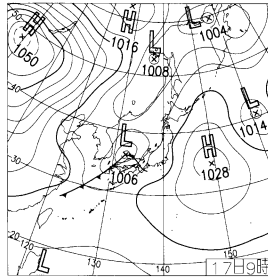


## 15日(火)台風第2号発生

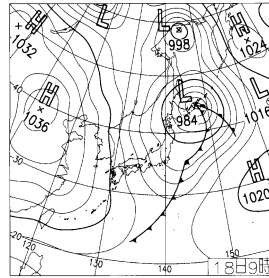
気圧の谷が東進し、西日本では雨、東日本は曇り、北日本で晴れ。フィリピンの東の海上で1月15日以来の台風第2号発生。宇和島市で平年より7日遅いモンシロチョウの初見。



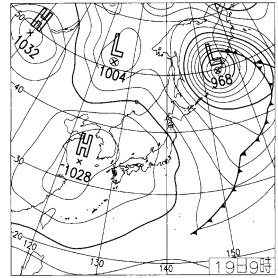
16日(水)全国的に寒さやらく  
高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れ。全般に気温が高く、最低気温は3月中旬～下旬並。最高気温は4月上旬並。札幌の最低気温が今年初めてプラスとなり、1.8℃。



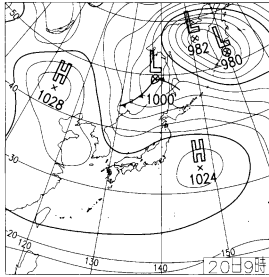
17日(木)東日本・西日本雨  
日本海を低気圧が発達しながら東進。東・西日本は雨、北日本は曇り。西日本で朝の気温が高く、九州では5月上旬並のところも。



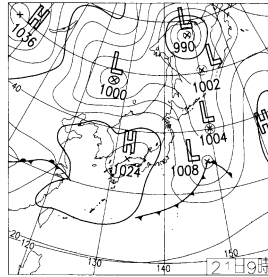
18日(金)九州・四国で黄砂  
北海道を低気圧が通過し、日本付近は冬型の気圧配置。日本海側を中心に雨や雪。関東は平年より5℃前後高い4月中旬並の最高気温。静岡県浜松市でスマイルが開花。



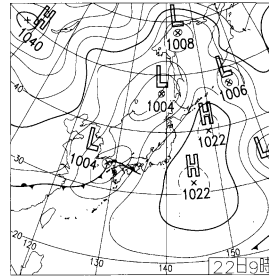
19日(土)移動性高気圧東進  
東・西日本及び南西諸島は、移動性高気圧覆われ晴れ。北日本は低気圧の影響で山沿いを中心に雪。九州各地でモンシロチョウの初見。



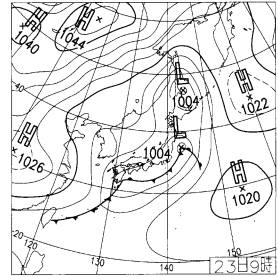
20日(日)福岡・佐賀県で震度6弱  
関東の東海上に高気圧。日本海を気圧の谷が東進。全国的に曇り、西日本の太平洋側で所々雨。福岡県西方沖でM7.0の地震。福岡市・佐賀県みやま町で震度6弱。



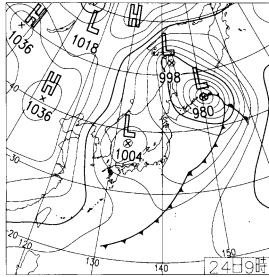
21日(月)全国的に晴天  
移動性高気圧に広く覆われ、全国的に晴れ。空気乾燥し東京都千代田区の最小湿度は9%で3月としての記録1位タイ。



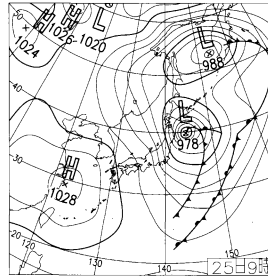
22日(火)本州を低気圧東進  
前線を伴った低気圧が本州を東進。東・西日本は雨。福岡・佐賀県の被災地にも雨。南西諸島や北日本は曇り。和歌山県串本町でモモが開花。



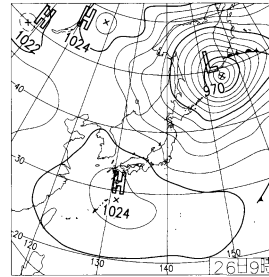
23日(水)西表島非常に激しい雨  
本州南岸に前線が延び、西日本から東日本にかけて雨。南西諸島を寒冷前線が通過。午前中を中心に雨。八重山諸島西表島では1時間に76mmの非常に激しい雨。



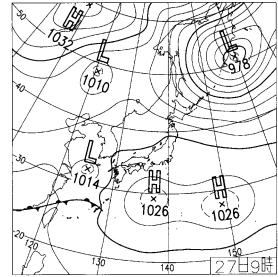
24日(木)熊本市でヒョウ  
日本海を低気圧が発達しながら東進。九州から雨が降りだし、午後は近畿から東海。夜には東日本に移る。北日本は概ね晴れ。熊本市ではヒョウを観測。



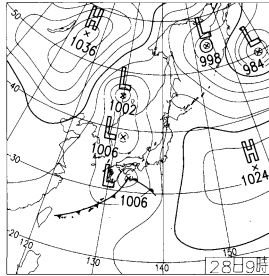
25日(金)真冬の天気分布  
三陸沖で低気圧発達。山陰から北の日本海側で雨や雪。その他は晴れ。15時までの24時間降雪。福島県楡枝岐47cm、広島県高野町35cm。最大瞬間風速は三宅島で36.8m/s。



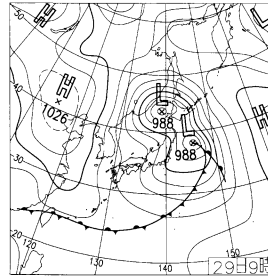
26日(土)北日本の日本海側雪  
千島近海で低気圧発達。日本の南海上に移動性高気圧。北日本の日本海側は雪。その他は晴れか曇り。日本の上空にはマイナス24℃以下の寒気が残り気温は平年並かやや低め。



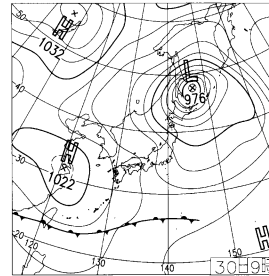
27日(日)東シナ海で低気圧発生  
前線の影響で西日本や南西諸島は雨。北陸から北の日本海側で雨や雪。東日本は、南海上から高気圧に覆われて晴れ。熊本市で平年より36日遅いヒバリの初鳴。



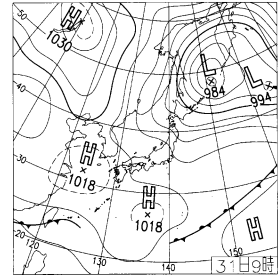
28日(月)宇和島・宮崎で桜開花  
西から深い気圧の谷に入り、北海道で晴れた他は雨または曇り。宮崎市・愛媛県宇和島市で全国に先駆けてソメイヨシノ開花。共に平年より3日遅い。



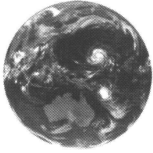
29日(火)スマトラ島付近地震  
日本海と三陸沖の低気圧の影響で北日本は雪や雨。関東南部で曇りその他は概ね晴れ。南西諸島は曇りや雨。スマトラ島付近でM8.5の地震。インド洋諸島で津波。



30日(水)北日本寒気入り  
北日本は、オホーツク海の低気圧の発達で寒気が入り、風雪強まる。南西諸島は前線の影響で曇り。その他は高気圧に覆われ概ね晴れ。室蘭市では最大瞬間風速25.0m/s。

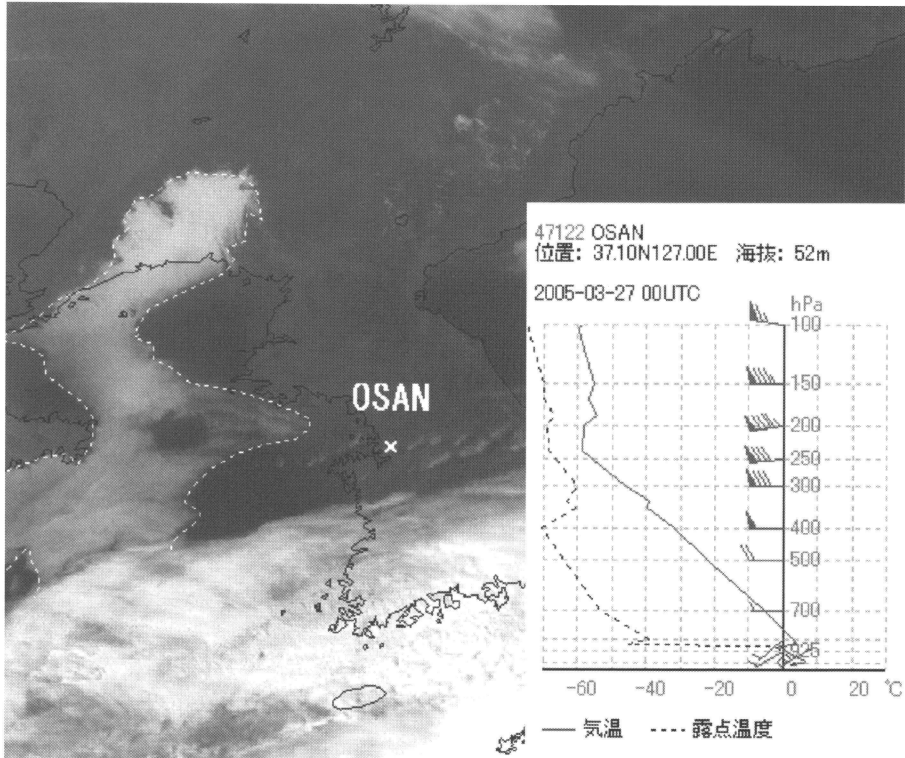


31日(木)桜開花関東へ到達  
千島近海の低気圧の影響で北日本は日本海側を中心に曇りや雪。西・東日本は黄海の高気圧に覆われ、晴れまたは曇り。東京都千代田区で平年より3日遅くソメイヨシノ開花。



## 今月の衛星画像—2005年3月

### 黄海の霧



2005年3月27日15時の可視画像及び09時の高層データ (OSAN)

この日、黄海の山東半島から遼東半島沿岸の海上にかけて大規模な霧（白い破線で囲んだ領域）が発生した。写真は3月27日15時の可視画像である。霧域は可視画像では灰色～白色の雲頂表面が滑らかで一様な雲域と見える。赤外面像では暗灰色または暗い色調で、雲頂高度が低く周囲の地表（海表）面と温度差が小さいため、霧域を特定することは難しい。

27日09時の高層データ（朝鮮半島の OSAN）によると、朝鮮半島沿岸の下層（900 hPa：約1000 m）には逆転層があって、地表付近では湿度約80%と湿っていて

霧の発生しやすい気象状態であった。この霧は26日の夜遅くから黄海や朝鮮半島の内陸で発生し、翌27日の明け方には広範囲に広がりを見せたが、この時刻には日射による昇温や逆転層の解消等により霧域の面積が縮小したものと考えられる。

このように広範囲に霧が発生すると海上や陸上の交通機関に大きな影響を与え、特に海上では船舶の遭難や海難事故の原因となるため、関係機関では十分な注意が必要である。

(気象衛星センター)